

小田切宏之著「競争政策論—独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論—」

日本評論社 2008年12月20日刊を読む

競争政策とは何か

「独占は良好な経営の大敵であって、良好な経営は、自由で普遍的な競争による以外にはけっして普遍的に確立できないものであり、しかもこの自由で普遍的な競争こそ、あらゆる人を自衛上やむなく良好な経営にたよらせるようにするものなのである」。

アダム・スミス著、大内兵衛・松川七郎訳「諸国民の富」第2巻、
岩波文庫 1960年、14ページ、原著初版は1776年出版

したがって、企業に効率的な経営を迫り、効率的な資源配分を達成することによって厚生損失を阻止するために、企業の競争制限的な行動を阻止し、独占的な市場構造が生まれないように監視・規制する必要がある。これが競争政策の基本的な考えに他ならない。

[コメント]

大不況を背景に、大幅な財政出動が余儀なくされ、本来の競争が阻害される懸念がみられる今日、資本市場のあり方とりわけ競争政策を根本から考える必要がある。

- 2009年1月9日林明夫記 -